

(様式第1号)

平成30年5月22日

認定介護福祉士認証・認定機構

理事長 大島 伸一 様

領 域 名 : 心理・社会的支援に関する領域

科 目 名 : 地域生活の継続と家族支援

単 位 数 : 2単位

認証申請する研修の名称 : 認定介護福祉士養成研修

団体名 : 一般社団法人三重県介護福祉士会

団体事務所の所在地 : 〒 514-0003

三重県津市桜橋 2-131 三重県社会福祉会館 2階

電話 : 059-264-7741

FAX : 059-264-7742

E-mail : mie\_kaifuku@ybb.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者 : (一社) 三重県介護福祉士会 印

申請責任者 : 大田 京子

記

○認定介護福祉士研修認証申請書 (別紙1～3)

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号 \_\_\_\_\_

(※は記入しないでください)

### 認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	平成30年5月22日
申請団体名	一般社団法人 三重県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 大田 京子
申請責任者職名 申請責任者氏名	三重県介護福祉士会 研修担当 森 聖志
団体住所  同 Tel・Fax メールアドレス	〒514-0003 三重県津市桜橋2-131 Tel : (059)-(264)-(7741) Fax : (059)-(264)-(7742) E-mail:mie_kaifuku@ybb.ne.jp
申請対象の領域	領域名：心理・社会的支援に関する領域
科目名 (単位数)	科目名：地域生活の継続と家族支援 (2単位)
申請する研修名	
研修認証実績	年 認証番号 ( ) 年 認証番号 ( ) 年 認証番号 ( )
その他特記事項	

別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	心理・社会的支援に関する領域	
科目名	地域生活の継続と家族支援	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者本人が培ってきた社会関係、社会的役割の維持、社会参加の支援や、家族への支援が行えるとともに、介護サービスだけではない地域のインフォーマルな資源も活用して、地域生活の継続が支援することができる力を育成する</li> </ul>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が培ってきた社会関係や社会的役割を踏まえて、介護サービスを利用することが必要になってもそれらとの関係を断ち切らずにできるだけ維持できる支援の計画を考案することができる。</li> <li>・インフォーマルな担い手による互助の活動について、担い手、活動内容、連携の方策や留意点について説明できる。</li> <li>・家族介護者の負担や困難について、典型例をあげるとともに、家族介護者への支援や連携の方策について説明できる。</li> <li>・複合的な困難を抱える家族について、典型例をあげるとともに、支援や関係機関等との連携の方策について説明できる。</li> </ul>	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会関係、ソーシャルサポート、社会的役割、社会参加の重要性と支援</li> <li>・社会的な繋がり、人間関係、ソーシャルサポートの維持、再形成支援</li> <li>・介護サービスによって、社会関係等を断ち切ってしまう危険性とその回避</li> <li>・社会的役割の維持、社会参加の支援</li> <li>○地域のインフォーマルな担い手による互助活動</li> <li>・意義と機能</li> <li>・主な担い手、活動・サービスの内容</li> <li>・連携の方策や留意点</li> </ul>	<p>◆◆事前課題◆◆（7時間）</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会関係や以前の社会的役割を踏まえた継続性のある生活を支援するために、どのような情報収集やプランニング、支援の配慮等が必要となるのか、研修本時で学ぶ知見を実践の実務に結びつけて理解できる視点を形成することをねらいとする。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域生活の継続や家族支援の参考となると考えられる文献を1つ読んだうえで、サービス利用者（適当な事例がない場合は、自分自身の家族などでもよい）を1名特定し、その人物について地域生活の継続や家族支援を視野に入れた介護計画を作成するためのアセスメントと分析を実施する。（介護福祉士基本研修テキスト「アセスメント表1-1、1-2、2、3」を使用すること）</li> </ul> <p>【方法】</p> <p>介護福祉士基本研修テキスト「アセスメント表1-1、1-2、2、3」により地域生活の継続や家族支援を視野に入れた介護計画を作成するためのアセスメントと分析を実施すること。</p>

○家族支援

- ・家族介護者の負担と支援
- ・複合的な困難を抱える家族への支援

◆◆研修1日目◆◆

(8時間 講義5時間・演習3時間)

- 演習1 (導入1.5時間)
  - ・家族、地域等社会構成主義的概念を理解、講義への導入として概念形成を助けることを狙いとす
- ①家族概念の多様性
  - 自己と他者の家族概念の違いをダイアログを通じて認識する。
- ②地域概念の多様性
  - 地勢、物理的、社会関係、概念認識等各層の地域イメージをダイアログを通じて理解する。
- ・学習のはじめに緊張感をほぐし学習への積極的な参加をうながす。
- 講義1 (基礎理論1.5時間)
  - 【内容】
    - ・家族及び地域に関する主要学説紹介、現代社会と、社会関係、ソーシャルサポート、社会的役割、社会参加の重要性
  - 【方略】
    - ・演習1での体験事象を理論解説に引用し概念の定着を図る。
    - ・さらに、数分程度のチーム内ダイアログを組み入れの事象との接近を図りつつ進める。
- 演習2 (社会関係への介入1.5時間)
  - 【ねらい】
    - ・演習1、講義1の知見をベースに社会的介入の実際を演習的に体験する。社会的な繋がり、人間関係、ソーシャルサポートの維持、再形成の支援をイメージする。
  - 【方法】
    - ・A教材「地域支援事例カンファレンス」
    - ・B教材「ダブルケアに関する家族ケアの支援会議」等のモデル化した教材VTRを視聴し、各事案の社会的な繋がり、人間関係、既存のソーシャルサポート等を把握し、その維持、再形成の支援についてディスカッションする。
    - ・ディスカッションを行い模造紙大のワークシートを埋めていく。
  - ・共有化によりグループごとに異なる視点への気づきを促し、それらの相違がどういう着眼点の相違から生じているかを解説する。
- 講義2 (社会資源1.5時間)
  - 【内容】
    - ・社会的な繋がり、人間関係、ソーシャルサポートの維持、再形成支援について概説
    - ・介護サービスによって、社会関係等を断ち切ってしまう危険性とその回避について、典型例を挙げ解説
    - ・社会的なつながりの維持と社会的役割の維持の関係について。
    - ・新たな社会参加の形成支援の困難性とポイント
  - 【方略】
    - ・演習2の場面観察分析体験を理論解説に引用し概念の定着を図る。
- 講義3 (家族支援1.5時間)
  - 【内容】
    - ・家族介護者の負担と支援、複合的な困難を抱える家族への支援概説。
    - ・具体的な事象への適用と方法的枠組み概説
  - 【方略】
    - ・ここまでの学習内容に加え、家族関係論、家族文化の固有性及びその分析方法等を踏まえ、介入と支援のプランニング、他職種・機関との連携等の基本原則等を解説。
- 講義4 (まとめ0.5時間)

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日目の学びを整理し、2日目の演習での事前課題エピソードについて、体系的な情報共有（カンファレンス・多職種連携場面でのプレゼンテーション、合意形成）を行いカンファレンスによる合意形成のトレーニングを行うことを示唆する。</li> <li>・2日目演習で行う事前課題エピソードの分析的プレゼン等のポイントを提示することで、1日目、2日目間の自習効果を促進する。</li> </ul> <p>◆◆研修2日目◆◆ （7時間 講義3時間・演習4時間）</p> <p>●演習3 （事前課題エピソード分析プレゼンと共有1.5時間）</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の自己エピソードを1日目で学習した理論や介入のポイントを用いて分析し現状と課題の改善策を他者に理解が得られるよう解説できるようにする。</li> <li>・他者の分析や介入支援提案に対しクリティカルな意見交換を行うことで、地域や自所属実践における主体的参画など自分自身の行動についての省察を導く。</li> <li>・介護場面の特性を視野に入れたチームマネジメントの視点を形成する。</li> </ul> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題のエピソードについて1日目の学習内容に基づき分析的にとらえ課題の改善策をグループ内でショートプレゼンテーションする。</li> <li>・グループメンバーは各プレゼンごとに、ブリーフィングを実施し、その内容についてクリティカルな意見交換を行う。</li> <li>・最後に共有されたグループメンバーのエピソードとその課題及び改善策の中から、最もグループ内で学びの深いと思われるエピソード1～2題を選定し、演習4の題材を決定する。</li> <li>・グループメンバーそれぞれが異なるエピソードを共有することで地域特性や家族課題等のバリエーション、それらへのアプローチに生じやすい特性への視野を形成する。</li> </ul> <p>●講義4（社会資源の発見と開拓2時間）</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会資源の特性と分類概念、インフォーマル資源の理解と開拓概説。</li> </ul> <p>【方略】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習3のメンバー間の発表内容を引用し概念の定着をはかる。</li> <li>・演習4に向けた導入として解説することで、介護過程の展開としての実践的な地域生活の継続支援と家族支援の展開に必要な点を概説する。</li> </ul> <p>●演習4（地域生活の継続支援と家族支援の展開2.5時間）</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的エピソードを素材に、介護サービスの利用による社会関係の断絶、家族介護者の負担や困難など典型的に生じやすい社会関係状況に対し、インフォーマル資源のマッチング、複合的な困難を抱える家族等家族介護者への支援や多職種多機関との連携方策などを検証し、介護過程の展開として介入支援の方策を検討する。</li> </ul> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題素材から選定した一事案を素材に、インフォーマル資源のマッチング、複合的な困難を抱える家族等家族介護者への支援や多職種多機関との連携方策などをグループでディスカッションし、介護過程の展開として介入支援の方策を検討する。</li> </ul>
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族支援や地域連携支援に生じやすいチーム活動の課題についてグループごとに発表を行い、提示された評価視点をもとにクリティカルな相互評価を行う。</li> <li>●講義5（まとめ・学習評価・事後課題1時間）</li> <li>【内容】</li> <li>・2日間の学習内容を振り返り、介護職のチームマネジメントについての基礎理論とその実践適用について解説する。</li> <li>・基礎理論について学習効果測定を行い、事後課題の提示を行うことで学習の継続と定着を促す。</li> <li>◆◆事後課題◆◆（8時間）</li> <li>【ねらい】</li> <li>・2日間の学習で得た地域生活の継続と家族支援について必要となる基礎理論や分析、実践展開のポイントを踏まえて、自組織における自身の具体的な取り組みの提示とともに解説することで、介護福祉士として介護実践としての地域生活の継続と家族支援における自分自身の行動について省察を深める。</li> <li>【方法】</li> <li>・2日間の学習内容を踏まえ、地域生活の継続と家族支援について介護実践における認定介護福祉士として自分自身が取り組む具体的な姿勢について、1500字でまとめる。</li> </ul>
研修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■集合研修</li> <li>■課題学習</li> </ul> <p>○集合研修講義と演習を組み合わせで行う。</p> <p>○課題学習は事前課題として、①資料を読み自己学習、②レポート課題を課す。評価は担当講師が行う。</p>
研修時間	30 時間（集合研修 15 時間、課題学習 15 時間）
修了要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全課程出席を要する。やむ得ない事情「公共交通機関等の影響、冠婚葬祭等」による遅刻、早退については10分を上限として認める。集合研修に関しては、10分を超える遅刻、早退の場合、別途課されるレポート課題により代替することを可能とする。</li> <li>○修了評価は、ア) 筆記試験、イ) リフレクションペーパーの内容、ウ) 授業参加貢献度評価による総合評価で、A～C評価（100点満点中60点以上）を合格とする。D評価（59点以下）の場合は、再試験を行い、A～C評価になったものが「疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ」が受講できる。やむ得ない事情による遅刻、早退については30分を上限として認める。やむ得ない事情による欠席があった場合には別途試験日を設定する。再試験は複数回の受験を可能とする。</li> <li>○欠席の場合は修了を認めない。</li> </ul>
講師要件（講師の選定基準）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験があること</li> <li>・修士課程を修了している事が望ましい</li> <li>・地域生活支援や家族支援、相談支援業務についての実務経験がある有資格者「介護福祉士、主任ケアマネ、社会福祉士、保健師、精神保健福祉士、臨床心理士、作業療法士等」が望ましい</li> </ul>

(2)受講者について	
受講対象 (受講要件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「認定介護福祉士概論」を修了していること</li> <li>・「心理的支援の知識・技術」を修了していること</li> </ul>
修了評価	<p>修了評価は以下により行う。</p> <p>①出席状況が修了要件を満たしていること。</p> <p>②評価測定は以下のA～Cにより行う。</p> <p>ア 筆記試験 基礎理論について知識チェック（テスト）を行う。</p> <p>イ リフレクションペーパー 学習者自らが授業への参加と自身の学びを振り返り、次の学びにつなげていくことを目的として振り返りを言語化し記述する。</p> <p>ウ 授業参加貢献度評価（自己演習＋演習・講義への参加貢献度） 演習において、発言内容、他者の意見に対する対応、演習内容の理解力等を講師が評価し、一定以上の基準を満たしていること。</p> <p>③評価配分</p> <p>A 筆記試験 40点</p> <p>B リフレクションペーパーの内容 30点</p> <p>C 授業参加貢献度評価 30点</p> <p>合計100点の割合とする。</p> <p>④総合評価 評価の合計が100点～80点をA評価、79点～70点をB評価、69点～60点をC評価とする。</p> <p>⑤A～C（100点満点中60点以上）を修了とする。 D評価の場合は再提出を求め、C以上の評価を得なければならない。</p>
(3)研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	40名
開催場所（都道府県）	三重県社会福祉会館（三重県津市桜橋 2-131）

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

### 認証申請する研修の実施体制等（届出事項）

(1)研修の実施予定	
実施日	① 平成30年7月27日（金）
	② 平成30年7月28日（土）
開催場所（会場）	① 三重県社会福祉会館 2階大会議室（三重県津市桜橋）
	② 三重県社会福祉会館 2階大会議室（三重県津市桜橋）

(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	<p>○地域生活の継続と家族支援 (2 単位) 講師：菊池 健志氏</p> <p>(略歴)</p> <p>特別養護老人ホーム クロスハート幸・川崎施設長 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター講師 昭和大学看護専門学校講師 神奈川県社会福祉士会実践ソーシャルワーク塾塾長</p> <p>・保有資格 介護支援専門員 介護教員講習会修了資格 社会福祉士</p> <p>・職歴〔介護・福祉に関する実務経験、教育・研究活動歴等〕</p> <p>2003 年 3 月 日本社会事業大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻 博士前期課程卒</p> <p>1998 年 4 月～2000 年 3 月 神奈川県 YMCA 福祉専門学校非常勤講師 (老人福祉学)</p> <p>2003 年 4 月～2005 年 3 月 神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター教員養成課程専任教員 (介護教員養成コース)</p> <p>2005 年 4 月～2009 年 3 月 神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター連携・専門教育専任教員 (地域・在宅支援課程)</p> <p>2004 年 4 月～2007 年 3 月 保健福祉大学 社会福祉学科非常勤講師 (地域型福祉の理解・社会福祉実習指導Ⅱ等)</p> <p>2009 年 4 月～2010 年 3 月 神奈川県足柄上保健福祉事務所</p> <p>2010 年 4 月～2014 年 3 月 神奈川県保健福祉局地域保健福祉部生活援護課 GL</p> <p>2014 年 4 月～2016 年 3 月 神奈川県立総合療育相談センター地域企画課長</p> <p>2016 年 4 月～ 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター講師 実践ソーシャルワーク塾 塾長</p> <p>2016 年 9 月～ 昭和大学医学部付属看護専門学校講師</p> <p>2016 年 4 月～ 逗子市・葉山町ケアマネジメント適正化推進事業運営委員会委員</p> <p>2018 年 4 月～ 特別養護老人ホームクロスハート幸・川崎 施設長</p>
	<p>・著書等</p> <p>『できるところからの地域福祉ノウハウ』(再掲)</p> <p>『介護福祉士合格指導講座テキスト3社会福祉概論／老人福祉概論』</p> <p>『わかりやすい介護保険法の手引』(再掲) 等</p>
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織	認定介護福祉士養成研修実行委員会 (常勤：1 名、非常勤：6 名)



(担当部局・人員)	実行委員会事務局（担当事務局員、常勤2名） 研修実行委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連関や留意点について共有する。またできる限り研修実行委委員会の委員が研修に参加・見学し、研修内容を評価するとともに、随時研修の見直しを図る。
研修の企画運営に関する諸規程	三重県介護福祉士会の定款、生涯研修委員会の諸規程に準ずる。
研修管理責任者職名	会長
研修管理責任者氏名	大田 京子
機構問合先部署	三重県介護福祉士会事務局
機構問合先担当者氏名	森 聖志
機構問合先電話番号/FAX	059-264-7741 / 059-264-7742
機構問合先 e-mail アドレス	<a href="mailto:mie_kaifuku@ybb.ne.jp">mie_kaifuku@ybb.ne.jp</a>
受講問合先部署	三重県介護福祉士会事務局
受講問合先担当者氏名	森 聖志
受講問合先電話番号/FAX	059-264-7741 / 059-264-7742
受講問合先 e-mail アドレス	<a href="mailto:mie_kaifuku@ybb.ne.jp">mie_kaifuku@ybb.ne.jp</a>
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	三重県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	○紙媒体及びデータによる台帳管理 ○データ保存期間は最低10年間とし、その後は、紙媒体で保管する。 ○個人情報の取り扱いにおいては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全課程を修了したのものには、全課程を修了した証明書を発行する。
管理責任者氏名	大田京子（会長）
管理担当者氏名	稲木千泰（担当の事務局員）

別紙 1

認定介護福祉士養成研修時間割表

領域：心理・社会的支援に関する領域

科目名：地域生活の継続と家族支援

(1日目)平成30年7月27日

区分	科目名	時間	内容
	受付	8:30~9:00	
1・2	○社会関係、ソーシャルサポート、社会的役割、社会参加の重要性と支援 ・社会的な繋がり、人間関係、ソーシャルサポートの維持、再形成支援 ・介護サービスによって、社会関係等を断ち切ってしまう危険性とその回避 ・社会的役割の維持、社会参加の支援	9:00~12:30	<p>◆◆研修1日目◆◆ (8時間 講義5時間・演習3時間)</p> <p>●演習1(導入1.5時間) ・家族、地域等社会構成主義的概念を理解、講義への導入として概念形成を助けることを狙いとする。</p> <p>①家族概念の多様性 自己と他者の家族概念の違いをダイアログを通じて認識する。</p> <p>②地域概念の多様性 地勢、物理的、社会関係、概念認識等各層の地域イメージをダイアログを通じて理解する。</p> <p>・学習のはじめに緊張感をほぐし学習への積極的な参加をうながす。</p> <p>●講義1(基礎理論1.5時間) 【内容】 ・家族及び地域に関する主要学説紹介、現代社会と、社会関係、ソーシャルサポート、社会的役割、社会参加の重要性 【方略】 ・演習1での体験事象を理論解説に引用し概念の定着を図る。 ・さらに、数分程度のチーム内ダイアログを組み入れの事象との接近を図りつつ進める。</p> <p>●演習2(社会関係への介入1.5時間) 【ねらい】 ・演習1、講義1の知見をベースに社会的介入の実際を演習的に体験する。社会的な繋がり、人間関係、ソーシャルサポートの維持、再形成の支援をイメージする。 【方法】 ・A教材「地域支援事例カンファレンス」 B教材「ダブルケアに関する家族ケアの支援会議」等のモデル化した教材VTRを視聴し、各事案の社会的な繋がり、人間関係、既存のソーシャルサポート等を把握し、その維持、再形成の支援についてディスカッションする。 ディスカッションを行い模造紙大のワークシートを埋めていく。 ・共有化によりグループごとに異なる視点への気づきを促し、それらの相違がどのような着眼点の相違から生じているかを解説する。</p>
	休憩	12:30~13:30	
3	○地域のインフォーマルな担い手による互助活動 ・意義と機能 ・主な担い手、活動・サービスの内容 ・連携の方策や留意点	13:30~16:30	<p>●講義2(社会資源1.5時間) 【内容】 ・社会的な繋がり、人間関係、ソーシャルサポートの維持、再形成支援について概説 ・介護サービスによって、社会関係等を断ち切ってしまう危険性とその回避について、典型例を挙げ解説 ・社会的なつながりの維持と社会的役割の維持の関係について。 ・新たな社会参加の形成支援の困難性とポイント 【方略】 ・演習2の場面観察分析体験を理論解説に引用し概念の定着を図る。</p>

	<p>○家族支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族介護者の負担と支援</li> <li>・ 複合的な困難を抱える家族への支援</li> </ul>		<p>●講義 3 (家族支援1.5時間)</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族介護者の負担と支援、複合的な困難を抱える家族への支援概説。</li> <li>・ 具体的な事象への適用と方法的枠組み概説</li> </ul> <p>【方略】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ここまでの学習内容に加え、家族関係論、家族文化の固有性及びその分析方法等を踏まえ、介入と支援のプランニング、他職種・機関との連携等の基本原則等を解説。</li> </ul> <p>●講義 4 (まとめ0.5時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1日目の学びを整理し、2日目の演習での事前課題エピソードについて、体系的な情報共有(カンファレンス・多職種連携場面でのプレゼンテーション、合意形成)を行いカンファレンスによる合意形成のトレーニングを行うことを示唆する。</li> <li>・ 2日目の演習で行う事前課題エピソードの分析的プレゼン等のポイントを提示することで、1日目、2日目間の自習効果を促進する。</li> </ul>
--	--	--	---

(2日目) 平成30年7月28日

区分	科目名	時間	内容
	受付	8:30~9:00	
1・2		9:00~12:30	<p>◆◆研修2日目◆◆ (7時間 講義3時間・演習4時間)</p> <p>●演習 3 (事前課題エピソード分析プレゼンと共有1.5時間)</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際の自己エピソードを1日目で学習した理論や介入のポイントを用いて分析し現状と課題の改善策を他者に理解が得られるよう解説できるようにする。</li> <li>・ 他者の分析や介入支援提案に対しクリティカルな意見交換を行うことで、地域や自所属実践における主体的参画など自分自身の行動についての省察を導く。</li> <li>・ 介護場面の特性を視野に入れたチームマネジメントの視点を形成する。</li> </ul> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題のエピソードについて1日目の学習内容に基づき分析的にとらえ課題の改善策をグループ内でショートプレゼンテーションする。</li> <li>・ グループメンバーは各プレゼンごとに、ブリーフィングを実施し、その内容についてクリティカルな意見交換を行う。</li> <li>・ 最後に共有されたグループメンバーのエピソードとその課題及び改善策の中から、最もグループ内で学びの深いと思われるエピソード1~2題を選定し、演習4の題材を決定する。</li> <li>・ グループメンバーそれぞれが異なるエピソードを共有することで地域特性や家族課題等のバリエーション、それらへのアプローチに生じやすい特性への視野を形成する。</li> </ul> <p>●講義 4 (社会資源の発見と開拓2時間)</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会資源の特性と分類概念、インフォーマル資源の理解と開拓概説。</li> </ul> <p>【方略】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習3のメンバー間の発表内容を引用し概念の定着をはかる。</li> <li>・ 演習4に向けた導入として解説することで、介護過程の展開としての実践的な地域生活の継続支援と家族支援の展開に必要な点を概説する。</li> </ul>

	休憩	12 : 30～13 : 30	
3		13 : 30～17 : 00	<p>●演習 4（地域生活の継続支援と家族支援の展開2.5時間）</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実践的エピソードを素材に、介護サービスの利用による社会関係の断絶、家族介護者の負担や困難など典型的に生じやすい社会関係状況に対し、インフォーマル資源のマッチング、複合的な困難を抱える家族等家族介護者への支援や多職種多機関との連携方策などを検証し、介護過程の展開として介入支援の方策を検討する。</li> </ul> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前課題素材から選定した一事案を素材に、インフォーマル資源のマッチング、複合的な困難を抱える家族等家族介護者への支援や多職種多機関との連携方策などをグループでディスカッションし、介護過程の展開として介入支援の方策を検討する。</li> <li>家族支援や地域連携支援に生じやすいチーム活動の課題についてグループごとに発表を行い、提示された評価視点をもとにクリティカルな相互評価を行う。</li> </ul> <p>●講義 5（まとめ・学習評価・事後課題 1時間）</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2日間の学習内容を振り返り、介護職のチームマネジメントについての基礎理論とその実践適用について解説する。</li> <li>基礎理論について学習効果測定を行い、事後課題の提示を行うことで学習の継続と定着を促す。</li> </ul>